

世界同時株安について

ポイント① 相場過熱によるテクニカル調整

10月10日の米国株式市場が大幅下落し、それを受けて、11日の日本株式市場やアジア株式市場は大幅下落となりました。10日のNYダウは▲3.1%の急落となり、11日の日経平均株価も▲3.9%の大幅安となりました。下落の原因の多くは、株式市場が買われすぎて、テクニカル的に過熱していた「反動」が出たものと考えられます。なお、NYダウは11日も▲2.1%下落。

図1と2に日米株価指数と代表的なテクニカル指標であるRSIを記載しました。RSIは70を超えると「買われ過ぎ」、30を下回ると「売られ過ぎ」とされるテクニカル指標ですが、足元の状況は日米株式市場共に年初以来の「買われ過ぎ」のゾーンに達していました。

ポイント② 米金利上昇の影響は？

ニュースでは、「今回の株安は米国金利上昇が原因」と言われていますが、10日の米国10年債利回りは一時的にやや上昇していたものの、1日の動きとしては株式市場を急落させるほどの大きさであったとは見ていません。一方、9月以降、米国10年債利回りは2.8%程度から3.2%程度に上昇していましたので、上述のテクニカル的な相場の過熱感と相まって、その影響が遅れて出てきたという見方が妥当だと思います。

ポイント③ 残すは日柄調整

現時点では、日米の企業業績は堅調に推移することが予想されており、足元の急落で相場の過熱感が解消してきたことにより、今後は落ち着きを取り戻すと考えています。但し、相場の過熱感は値幅と日柄（時間）という二軸での調整が必要なため、当面は「日柄調整」、つまりは、時間が必要であると考えています。もうすぐ7～9月期の決算発表も始まるので、ファンダメンタルズも注視しながら、徐々に相場は回復するでしょう。

図1：ダウ工業株30種平均とテクニカル指標

期間：2017年9月29日～2018年10月11日、日次

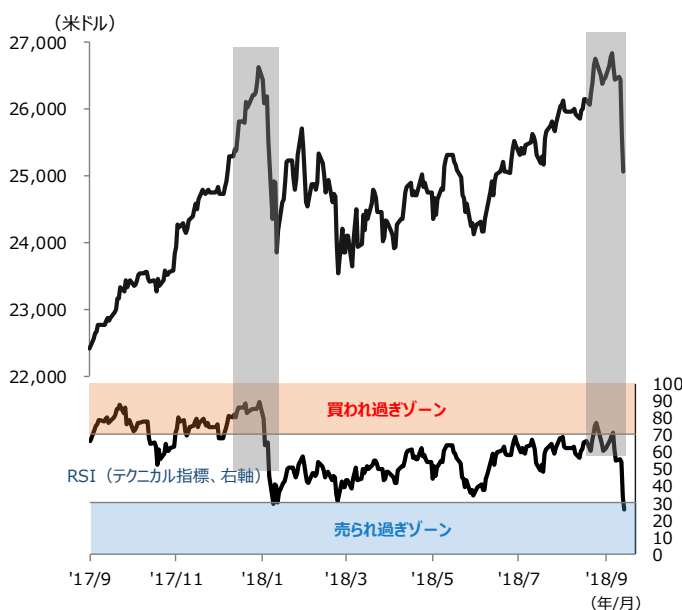
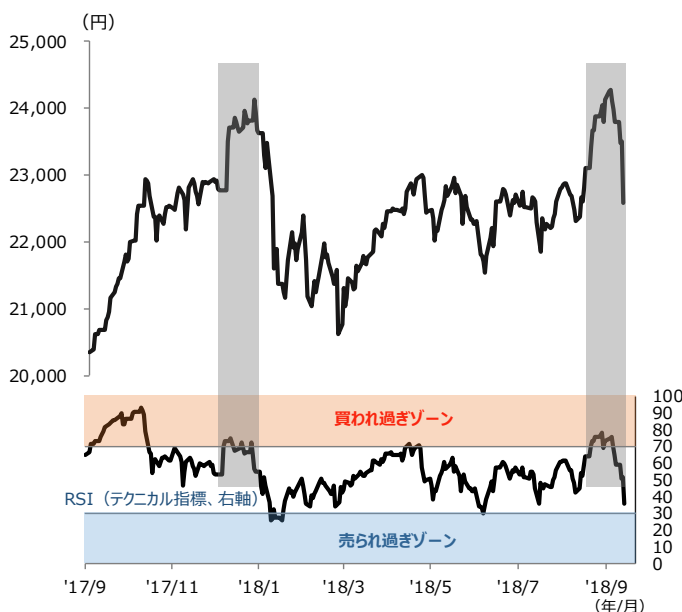


図2：日経平均株価とテクニカル指標

期間：2017年9月29日～2018年10月11日、日次



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。